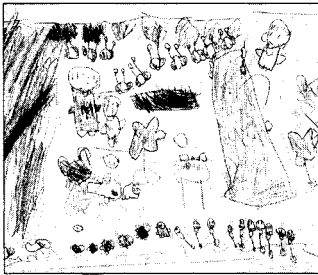


第二章
死ぬしかないんかな？



おじまおば
小島汀ちゃん(3歳)・絵



全国で激励基金。秋田は雪。ボランティア初体験の学生、高校生も多数参加。



1億1,677万円の募金と3,000通の励ましのメッセージが集まる。

安らかに眠ってください

高校二年 小林謙太郎

母さんは僕が生まれてからすぐに、家族のためにと朝起き会に入り、毎朝三時半に起きていましたね。

だけど僕はやめてほしかった。体は家事などで疲れていたはずなのに、朝起き会もやるのは精神的にもきつかったと思います。それを十七年間も続け、最近では笑顔も消えていました。それに、もし朝起き会に行っていなかったら、地震で死ぬこともなかったはずで。

母さんが死んで二か月が過ぎましたが、目の前にはいつも母さんがいるような気がします。だけど、死んでしまいました。もういない人をいつまでも思っていてもしようがありません。自分の道は自分で切り開いていくんだよね、母さん。

最高の十七年間、ありがとう。けんかもしよっちゅうしたけど、母さんの手料理の味は最高でした。

天国に行っても、僕らのことを忘れずに、ゆつくり安らかに眠ってください。もう無理をすることもなくなったんだから、母さん。

死ぬしかないんかな？

もうすぐ起きなあかんなどウトウトしていたら、突然、ゴォーという音がして、気が付いたら家内の上にタンスが倒れていて、その上に家の真ん中の一番太い鴨居が落ちていました。たぶん即死だったと思います。

三人の子どもたちは二階で寝ていたんで全員無事でした。家内を亡くして子どもまで欠けたら立ち直る気力が出なかったと思いますから、これも不幸中の幸いでしような。

家財はほとんど持ち出せなくて、親父とお袋の遺影と位牌がやっと。家内の写真もと思いましたが、結婚式の写真もどこにあるかわからなかった。

結局、一家全員の荷物がビニール袋三つだけという結果でした。比較的無事だったのは二階にあった子どもの衣類です。でも一階にあった私の洋服はダメでした。二、三日は真冬なのにパジャマだけで過ごしました。

子どもたちは一番上が受験直前だったり、一番下は思春期の女の子で、いつまでも避難所で雑魚寝ざごねというわけにもいかなかったんで知人の家に避難しました。半年たつてようやく家を建て直す気になりました。本当はもう恐くて神戸に帰る気はなかったんですが、中学生の娘が転校するのは絶対いやだって言うし、やっぱり家内の亡くなったこの土地で一家四人、もう一度

やり直すことにしようと思っただんです。

でも五十歳を過ぎてどーんとローンをかかえることになってしまいましたので、肩の荷が重くのしかかっています。団体保険に入っているから、もしローンが返せなくなったら死ぬしかないのかなと思いますけどね。

震災の話は家族の中では禁句。母親のことを思い出さだろうと思うから、できるだけその話は避けています。子どもたちは見た目には気丈に振る舞っていますが、心の中では葛藤があつたでしょう。娘は震災後二、三日はショックで一切ものをしゃべらんようになってしまつてね。失語症になるのではと心配しましたが、今は元気で学校に通っています。

長男もあの苛酷な状況で受験勉強をし、志望校に入りました。子どもの方が立ち直りが早いのかなと思うことがあります。私はあれから十キロも痩せてしまつたし、家事をやらなければいけないので、早く帰ってくるようになって、話し相手もないし……。ローンのこととか考えると頭が痛くて酒量が増えました。子どもたちからは、いっつも酒ばっかり飲んでると怒られていますよ。

震災後、大阪に出てみたら女の子がスカートはいてるのに驚きました。神戸では見たことがなかったしね。電車で一時間もかからない街なのに、まるで異国に迷い込んだみたいで、正直言って腹が立ちました。

女っ気がないって寂しいもんやな

夫婦と子どもが男女一人ずつの典型的な四人家族でした。震災で女房と娘を失い、今は息子と男同士二人の暮らしです。女房と中学生の娘は明るくにぎやかで、時々うるさいくらいでしたが、今はあの華やきが、この家を支えていたんだと思います。女の存在の大きさというものをしみじみ感じます。女っ気がないってこんなに寂しいものかと思えますよ。

幸い、息子は高校を卒業し、就職も決まりましたし、ともかく明るい性格で私を支えてくれます。こんな子に育ててくれたのも女房だったんだなと、今になって感謝しています。

私たちが住んでいたのは二階建て六軒続きの文化住宅の真ん中でした。これも運命だったんだと思いますが、両端の家はみな無事。両側からの圧力が中心に向かってかかったために、我が家は完全に押し潰されてしまいました。

地震に気づいた時、庭側の部屋に寝ていた私だけが飛び出すことができませんでしたが、玄関側の部屋に寝ていた女房と娘、真ん中の部屋に寝ていた息子は瓦礫の中に埋もれたままでした。救出するために二階の部屋の畳をこじあげ、一階の屋根をはがさなければいけませんから、並大抵のことではありませんでした。

倒壊後五分くらいは、女房や娘の助けてーという声も聞こえていましたが、私一人の力では

どうにもなりません。現実とは思えなくて、地獄に落ちたのかと思いました。日本中がこんなふうになってしまったに違いないと思ったほどです。

ようやく息子にたどりついたのが三時間後。本棚と壁の上に天井が落ちてきているわずかの隙間にはさまって一命をとりとめたんです。体には百力所くらいトゲが刺さっていました。あとは擦り傷程度だったのは、きつと奇跡的だったんでしょう。

女房と娘を引きずり出したのは、それから一時間後でした。女房は娘をかばうように覆いかぶさっていました。その上には重い百科事典の入った本棚が倒れていました。血を吐いていましたから、たぶん圧死で内蔵破裂だったんでしょう。でも体はほとんど傷がなくなきれいで、まだ暖かく目も開いていたし、生きているに違いないと思って人工呼吸を繰り返しました。

通りかかった見知らぬ人の車に乗せてもらって病院に運びましたが、もう息絶えていました。病院は廊下までケガ人があふれ、まさに地獄絵巻のようでした。

私は商店に勤めていたんですが、店舗は比較的無事で震災後一週間で再開、私も二十日ほど休んで復帰しました。震災で家も家族も失った上に職も失った人が大勢いるんですから、私はまだ恵まれている方だと思えますよ。今は月に三十万ほどの収入がありますから、自立できていますし、息子もまもなく経済的に独立します。ともかく隣に息子の笑顔があることが一番の幸せです。この子がいなかったら私はきつと自暴自棄になっていたと思います。

一瞬先は誰にもわからない

亡くなった夫は四十代の働き盛り。お互いに忙しい仕事を持っていたのですが、ここ一、二年、土曜日は夫婦二人だけで食事に行ったり散歩をしたり、日曜日には家族四人で過ごすというスタイルが定着していました。

お互いをパートナーとして再確認をし、これからは今までの蓄えで少しエンジョイしようと。そして老後の生活設計も話し始めていたところだったんです。

でもその朝、すべてが抹殺されてしまったのです。仕方がないではすまされないけど、しょうがないって思わなくちゃやってられないですものね。人間みな、結局は一人なんだって、それに次の瞬間にどうなるかなんてわからないって、本当に身にしみました。

地震の朝も五時半頃二人で目をさましてしまったので、これからの話をしながらもう少し寝られるねと手をつないで眠りに就いたんです。それから十五分後、二階に押しつぶされることになろうとは夢にも思いませんでした。

主人は梁に頭をはさまれて動けず、私は右手だけがはさまれました。最後に主人が私の手をギョツと握ったんですが、何度声をかけても返事がなかったので、ダメだったかと悟りました。家具や車はまた働いて買えるけれど、人生のパートナーを失ったというのはダメージが大きす

ぎて……。

こんなことが起きる前は、人に何かを与える余裕を持つことが自分を幸せにする、そして人に声をかけると自分も元気になるって、自信を持って思ってたんです。でも、それにも限界があるんですね、よくわかりました。最初の三カ月ぐらひは、そんな余裕なんてぜんぜんなくて、なんで自分だけ……、とついつい思ったり。昼間はカラ元気が出ても、夜になるとしんどいなあ、情けないなあって落ち込んでましたね。

二人の息子には不思議なほど被害者意識がありません。常日頃から、物事を主体的にとらえるようにということを教えてきたので、それが役に立ったんでしょう。誰かのせいになんかできないし、したってよけいに惨めになるだけですからね。

お兄ちゃんも樂觀的なのか、どうせダメなら楽しまなきゃソン！ というのが口癖になりました。弟は今まで何事にも慎重すぎる性格だったけれど、もっと大きく生きようと思うようになったようです。

今回のことで、マスコミに対して不信感を持ちました。ストーリーを作り上げてそれに合う登場人物を捜している。息子たちも取材を受けましたが、こんなこと答えていないと言っていました。今まで何気なく見ていた報道というものは、それがまるですべてのようにごく一部を伝えているものなのかと思い、いかに不確実かということを確認しました。

別居していた妻に死なれて…

ちようど、震災の二カ月くらい前に妻と大げんかをして別居していました。妻は子どもを二人連れて出ていったきり、住んでいる場所も教えてくれなかったんですが、最近になって行き来するようになって、地震の前の夜も四人で夕飯を食べにいったばかりでした。あれが最後の晩餐になってしまったけれど、死ぬ前に四人で会えて本当に良かったなと思っています。

妻はとても厳しい性格でしたが、そのおかげで今は娘がしっかり家事もやってくれてるんですよ。子どもから聞くところによると、私と別居したことで、子ども二人と自分の生活を支えていかなければならないと朝から晩まで精一杯働いていたようでした。

私の家は中はぐちゃぐちゃになりましたが、壁にヒビが入った程度でしたので、揺れが終わってから外に出てみて、近所の人達と五分くらい啞然としていました。

でも家族のことが気になって、どこをどう走ったかも覚えてないけれど、ともかく走り続けて妻達のアパートに行きました。

すでに近所の人達が救助を始めてくれていて、妻と息子の顔が見えていました。思わず子ども達の名前を呼んだら、姿の覚えていなかった娘が瓦礫の中から、お父さん、生きていますよと答えたので、車のジャッキで二階を押し上げて助け出しました。

妻は息子に覆いかぶさって、その肩の上に二階の梁が落ちてきたようです。首の骨でも折ったらしく、即死だったんでしよう。娘の頭のところに妻の脚があったので、一生懸命脚を叩いたようですが、何も反応がなかったと言っていました。

今は、三人で暮らしています。娘は就職が決まっていた神戸の工場がダメになったんで、本社まで二時間かけて通っています。それで、帰ってきてから家事をするんですから大変だろうと思います、グチ一つ言いません。

小学生の息子は甘えん坊でわがままになったように思います。もう少しなので、元の小学校に通っていますが、近所に友達はいないし、夏休みなんかはポツンとして寂しそうです。

家族だけの時は地震のことは話題にしないんですが、親戚や知人が来てそういう話になると、息子は聞きたくないらしく、どこかに行ってしまう。でも地震直後は役所に行ったりいろいろ事務的なことが多かったし、今は今でお互いに慣れない家事で精一杯で、妻のことを思い出して嘆いたりしている暇も余裕もなくて、ただ生きるために一生懸命です。

ボランティアの方もずいぶん一生懸命にやってくれましたが、やはり私達のことを知らなくて、なんか信用がおけないような気がしてしまふ。近くにボランティアの団体がいたんですが、頼みにくくてね。よく知っている友達の方支えでした。自分のことは自分です。依頼心が強くて、人をアテにしてばかりいる人は立ち直れないと思いますよ。

女手一つで育ててくれた母はもういない

小さい頃から母が女手一つで僕たち兄弟を育ててくれました。ようやく自分も社会人になって、弟も大きくなったので、これから二人で親孝行しなくてはと思っていた矢先に、亡くなつてしまいました。目の前が真っ暗になって、どないしたらえんやろうと思えばかりでした。

弟は、当時受験を控えていたのに、シヨックで何もしゃべらんようになって、様子もおかしくなりました。それでも志望校に受かったんですからたいしたもんです。

私は五月にそれまでの会社を辞めて、今はトラックの免許を取るために教習所に通っています。弟は、弁当のこともあるし、僕には面倒が見切れないので、いここに預けて、そこから学校に通っています。

母と弟はアパート暮らし、僕は近くのマンションに部屋を借りていました。震災の晩、母はちょうど知人の家に泊まっていたらしく、行方不明で弟と二人で方々捜しました。結局一週間たつてもわからなくて、そこへ行くのだけはいやだったんですけれど、最後に身元不明の遺体安置所に行つて見つけました。

被災後しばらくは、弟と二人で僕の車の中で避難生活をしていました。避難所に行くよりその方が安心できたんです。食事や毛布は避難所からもらつてきましたけどね。仕事が心配だつ

たんで、弟を乗せたまま車で会社に行つて、社長に事情を話すと、会社もビルが斜めになつたから、すぐには仕事を始められないし、ともかくお母さんを捜せと言つてくれたんで、二週間ほど休んで役所に行つたりといった事後の対応をしました。

地震の時の行政の対応は鈍すぎて、自衛隊の派遣が遅れた分、たくさんの人が亡くなつたんだと思います。マスコミも地震直後から何機もへりを飛ばしたりして、非常識でしたね。あのバタバタいう音のために助けてつていう声が伝わらなかつたと聞いて、怒りを覚えました。せっかくへりを使うなら救済活動や救援物資の運搬にでも使つてくれればよかつたのに。マスコミは、あくまでも第三者の冷たい目で見ているんだなと思います。

ボランティアの人はよくやつてくれていたと思います。グループを作つて食物を分けてくれたりして、当事者はみんな自分のことに必死でそれどころじゃなかつたから、本当に助かりました。

今でも余震があると、また、大地震になるんじゃないかと心臓が止まりそうになります。実際に母を亡くしていますから、死への恐怖というものも根強いです。

動物はなおのこと敏感らしくて、おとなしくて人懐こかつた飼い猫が急に反抗的になつて牙をむくようになったりして、仮設住宅から逃げていってしまいました。犬も地震があると跳び上がつて驚くんですよ。

板の上で動かぬ母

専門学校一年 榎本裕子

震災の日、父が仕事に行くのが早いため、母は五時すぎにはもうお弁当を作っていました。父と弟の声はよく聞こえていたので、無事だということはすぐに分かりましたが、母の声だけは一度もなく、何度も声をかけましたが、返事がありません。私は絶対に生きていくということだけを信じ、死のことはぜんぜん考えもしませんでした。

家族の誰一人、自力で外に出れる人がいなかったため、弟と二人で必死で助けを呼びました。だいたい時間がたつてから、やっと前に住んでいる人が助けられて、私、弟、父の順に救い出してくれました。

母だけは声がしないので、どこらへんにいるのかがなかなか分からず、そうとう時間がかかりました。私は母の姿を見るまでもとても不安でした。でも、必ず元気な姿で出てきてくれると信じていました。

ところが、板の上で動かない母が助けられてきました。私は生きていくかもしれないと思っていたけど、父が私の方を向いて首を横に振ったので、駄目だったことが分かり、私はそのとたん頭がおかしくなったようになり、体の力がぬげた感じになりました。座り込んでしまい、「お母さん！」とずっと叫び続けました。

まさか私のお母さんが、こんなに早く死んでしまうなんて、うそだ、うそだ、うそだと、そのことばかりで、お母さんはまだ生きているのではないかと、どこかで思っていました。

これから母のいない生活が始まると思うと、生きていく自信がなく、これからのなら、楽しみもないと思ひ、あのころは、こんなにつらい思ひをしなければならぬのなら、自分も死んだ方がよかつたのと思つたことがよくありました。

でも、今は母の分まで頑張つて生きようと思つています。それは、私は体が弱く、十二年前から入退院をくりかえしていましたが、私が病氣になつてからというもの、母がいつもそばにいてくれたからです。そんな母の苦勞を無駄にしてはならないと思つたからです。

お母さん、今まで本当にありがとう。私たちのこと、あんなに心配して見守つてくれたのに、口ごたえばかりしてごめんさい。お母さんがいなくなつてから、お母さんがしてくれたことのありがたみがよく分かりました。思ひ出すと反省することがたくさんあります。お母さんが生きてるときに早く気付けば良かったのにな。

お母さんは私にとって最高のお母さんでした。これからも私たちのことを見守つてください。なにも心配せず安らかに眠つてくださいね。

三十円を貸してくれなかった警察

家族四人で二階に寝てたんでまだよかった。一階だったら全員アウトでしたね。体を動かすことができなくて一時間くらいたって、長男がとりあえず抜け出て近所の人を呼んできたんです。僕は足の爪が全部はがれて打撲もかなりありましたけど、なんとか無事でした。

妻は天井の下敷きになって即死だったんでしょう。病院に連れて行きましたが、もう心臓が止まってました。まだ幼い次男を連れて遺体を体育館に移しました。それでも検死の人がくるのに四日もかかって、ドライアイスもなく、妻がかわいそうでした。

妻はとても教育熱心で、子ども達には小さい頃からインターナショナルな感覚を身に付けさせなくてはならないと英語をやらしてました。だから、その熱意が学校にも伝わっていて、一番親身になってくれたのは学校の先生でした。子ども達とも個人的にもずいぶんいろいろ話をしてくれて支えになってくれました。

それに引き替え、警察や消防はひどかったですね。近くの消防署に助けを呼んでも、長田の火災にみんな行ってしまって、こっちには誰も来てくれない。警察に行っても、ここは避難所じゃないからなんて言われて追い出されました。電話もかけさせてくれない。その時に通りかかった赤の他人が三十円貸してくれました。その人が神様に見えましたよ。警察は三十円も

貸してくれなかったのにね。

市もあの非常時に書類を神戸大学まで取りに行けって言うんです。どうやって行くんですか？ 交通機関もないのに。こっちは幼な子抱えて、生爪はがしているんですよ。行政側の代表が行って配ってくれるものでしょう。でも、文句言っても下っぱじゃしようがないしね。

子どもとは震災の話もよくします。

「ゲームソフト買すぎたから罰が当たったんかな」

なんて言っていますよ。現実を見つめさせようと、まだ小さいけれど母親の遺体もちゃんと見せました。悲しいことだけど一時的な悲しみの方がまだましです。大きくなってから、

「お父さん、なんで教えてくれへんかったん？」

と言われたら僕が後悔します。

でも、あれ以後、子どもはしょっちゅう病気にかかるようになったのが一番印象的な出来事です。急にブツブツができたり熱が出たり、治ったかと思うと喉が腫れたり。体に影響が出ているんですね。

それと学校の先生に言われたのが学力の低下。ショックで勉強ができないんだろうけれど、乱暴になったり短気になったとも言われました。妻の思い描いていた通りに子ども達をこれからもインターナショナルな子に育てなきゃと思っています。

「がんばってね」と言わないで！

家は震災地のまっ只中にあるのに、当日は学校に近い祖母の家に泊まっていたので、私は無傷です。いつも通り学校へ出かけました。登校してきた生徒も少なかったので自習をしているうちに、母が病院に運ばれたという連絡を受けて、伯父と車で神戸に向かいました。

電車なら一時間かからないのにひどい渋滞で、丸一日かかりました。近づくにつれて倒壊家屋が増え、想像よりひどいとは思いますが、わが家だけは無事だろうと信じてました。家の前に立った瞬間、改めて現実を目の当たりにした思いでした。二階建ての家屋がどう見ても平屋になっていました。母はいつも二階に寝ていたのに、その日に限って一階で寝ていたらしく、下敷きになって死んでしまったそうです。でも、それを知らされた時も、何、冗談言つとるのと思っただけで、ショックは何も感じませんでした。

地震後五時間たって救出された母は、かすかに息をしていたので病院に運んだのに、病院は満員で診察してもらえず、もうダメだよ、と言われて体育館に運ばれたそうです。私が行った時には、母はバジヤマ姿のまま冷たくなっていました。どうして、まだ生きていた母を病院が助けてくれなかったの？と頭の中をいろいろなことがかけめぐり、とても現実とは思えず、今、私は悪い夢を見ているんだと自分に言い聞かせました。

一人っ子の私にとって、母は姉であり親友でした。とても仲が良く、何をするのも一緒でした。人に弱みを見せるのが嫌いな私は、今までは何でもかんでも言っていた母を失って、自分の中に感情を溜め込むようになってしまいました。

私は看護学校の生徒ですが、それは在宅看護をしていた母の影響でした。その母がいなくなってしまうって看護への情熱が薄れ、学校を辞めようと思ったのですが、辞めたら母を裏切ることになると思います。

他人はよく私たち被災者に「がんばってね」と言いますが、この言葉ほど気分が悪くなる言葉はありません。そんな安直な表面だけの励ましなんて誰も求めてはいないのです。

確かに今でも母を思い出すと悲しいけれど、半年以上過ぎた今でも悲しさがって泣き暮らしているときと天国の母は喜ばないでしょう。

春休みに避難所にボランティアに行った時に五、六歳の男の子の、

「ぼく、お父さんとお母さんとお兄ちゃんが死んじゃったから、おばあちゃんと二人だけなの」という言葉が忘れられません。私も不幸だと思っていたけれど、この子に比べたらまだ幸せなんだから、へこたれちゃいけないと力づけられました。

今までは母が私たち家族を守っていたけれど、これからはそれが私の役目になるのだから、父と一緒にすべてのことに挑戦していこうと思っています。

あの場所にいつか僕が家を建てる

地震が来たとたん、一歳上の兄は窓の外に飛ばされたようですが、僕の部屋は窓が開かなくてガラスを蹴破って外に出ました。そこは二階のはずなのに地面がやけに近くて。一階が押しつぶされて二階は一階になっていました。一階に寝ていたはずの両親を助け出そうとしましたが、とても手を付けられる状態ではなく、ただ諦めるしかありませんでした。

翌日、自衛隊が来て両親を遺体安置所に連れて行ってくれましたが、三カ所ある安置所のどこにいるかは自分で捜せ、です。三カ所は離れていたので見つけるまでが大変でした。

ようやく捜し当てたものの、火葬場も壊れてしまっ使用できないということで、東大阪まで遺体運んで茶毘だびにふしました。その時にも車にたくさんは乗れないと言われて、僕たち兄弟は諦めるしかなく、親族代表の伯父が乗った車を見送りました。遺骨は伯母の家の近くのお寺に預かってもらっているの、いつかきつとお墓を作ってあげたい。

震災の後は家の中に入ること自体が危険だったので、家財はほとんど持ち出せませんでした。が、印鑑やアルバムといった重要なものは出しました。でも、家を片づけに行った時、すでにTV等の大物は盗まれていて、こんな時でもそんなヤツおるんかとびっくりしました。物は失ったけれど、僕ら兄弟は奇跡的になんのケガもありません。それでも、震災直後は夜が恐くて

寝ていてうなされるのがたびたびです。

面倒見のいい伯父のところには頼ってくる人が多くて、一時期は十人ぐらいが一緒に生活をしていました。食べ盛りがたくさんいるので、食事の買い出しだけでも大変な量です。今は伯父夫婦と二人のいとこと僕ら兄弟の六人です。でも育ち盛りの男四人がいては狭いので、もっと広い家を建てる計画をしているようです。

伯父には本当に支えになってもらって感謝していますが、僕はいずれ今では跡形もなくなつたわが家があつた場所に、きつと家を建ててみせます。何年かかるかはわからないけれど……。

兄は自分とは正反対のタイプで、勉強が好きで内向的、部屋にこもって本ばかり読んでいて、弟の僕とさえほとんど喋らないから何を考えているのかわからないところがあります。兄は受験生で、つらい思い出のある神戸にはいたくないらしく、九州の大学をめざしています。義援金などで一千万円くらいの貯えがあるので、それを使って大学に進めばいいと思います。

僕は学校も今まで通りだから、交友関係はまったく変わっていません。友達のところは遊びに行くし、震災当時は家の近くで友達がテント生活をしていたりしたので、よく集まってみんなで語り合ったり騒いだりしました。それで気も紛れたし、友達が一番心の支えになりました。

一流大学に入れる夢、かなえます

私は仕事から朝が早いので、その日もすでに仕事場についていました。起きて何時間もたっていたので頭ははっきりしているはずなのに、何事が起こったのかさえわからずひたすらデスクにしがみついています。そこら中の荷物が飛び散り、倒れるはずのないような物まですべて倒れてきました。揺れがおさまってから自宅のある山手を見上げると、煙があがっていたので車で帰ろうとしたのですが、途中、橋が壊れていて、とても車で渡れる状態ではなかったの自分の足で走って渡りました。

ようやく家についても、二階で寝ているはずの家内と二人の息子がどこにもいない。

幸い二人の息子は無事でしたが、家内が見つからない。家は全壊だったんで、ともかく少しでも安全なところにいることを願いつつ、居間やテーブルの下を捜しました。それでもないので一番損壊のひどい炊事場を捜したら家内の頭が見えました。これはあかんかったな、と思ったとたん、体中の力が抜けてしまつて助け出すこともできませんでした。

起きたばかりで、二階から下りてきて洋服に着替え、お米を洗い出したところだったらしく、洗いかけの米が床一面に散らばっていました。あと五分起きるのが遅かったら助かっていたかもしれないと思うと悔しくてね。

家内は教育に厳しかったので、上の子は名門高校に進み、一流大学をめざしています。反対に猫の子をかわいがるように甘えさせることもありましたが、息子たちは母親を信頼していました。家庭のことも百二十パーセント任せられるほどしっかりしていたので、私はひたすら仕事に打ち込むことができたおかげで役員にまでなりました。

今までは仕事一筋でしたが、これからは家庭と仕事と五十パーセントずつにしたいと社長に話し、現在はそういう生活を送っています。家庭を振り返ってみるといかに家内の存在が大きかったかを思い知らされます。

今までは私の仕事の時間帯のこともあって、息子と一緒にいる時間はとても短かったわけです。でも、こうしてその時間を長くしたことで親子の絆は深まったように思います。伝達役だった家内がいなくなったので、息子たちも何かあれば相談してくれるようになり、ホッとします。子どもを一流の大学に入れることが家内の夢だったので、なんとかがんばって二人とも大学へ進ませてやりたいと思っています。

「神戸は復興した」ってデモストレーションみたいに、見せ掛けだけのきれいなビルを建てていないで、行政はもっと個人に力を向けるべきです。全国から集まった義援金を個人がもっと受け取れるようになり、神戸市民が裕福にならなければ、街は復興しないと 생각합니다よ。

みんなに負けないぞ

小学三年 有川ちえみ

じしんがきたとき、となりのおじいちゃんに助けてもらいました。そのあと、どうなったかわかんないけど、きづいたら、お父さんが死んでいました。だいぶ日にちがたつてから家を見にいつて、とてもびつくりしました。ぐちゃぐちゃペちゃんこになっていて、かなしくなりました。助けてもらったおじいちゃんが学校にひなんしているの、会いにいつてお礼をいいました。

いまずるとなり町が長田区なので、見にいきました。わたしの灘区もすごかったけど、長田はもっとひどかったです。長田にてん校した友だちは、だいじょうぶかな。お父さんは死んじゃったけど、よくいつしよにあそんだことをわすれず、がんばってきたいとおもいます。

あしながいくえいかいのお兄さんお姉さんにも会えなし、有馬でほかの友だちにも会えなし、みんながんばって生きているから、まけないぞ。マツノのお姉ちゃん、これからもよろしくね。たくさんお友だちつくるから、お姉ちゃんもお友だちをしようかいしてね。バイバイ、またね。

進学の夢あきらめない

高校一年 横山美也子

地震が起こって五時間後には救出されたのに、その日の夜にお父さんは死んでしまいました。

すごく悲しかった。お父さんとは、結局最期まで話すことができませんでした。

お父さん、地震の前夜、みんなでたくさん話をしたね。とてもうれしかった。今まで反発ばかりしていてごめんね。もう一度ゆっくり話したいね。

お父さんが死んでから、まだそんなに日もたっていないのに、悲しいことやつらいことが本当にたくさんあった。

だから、これからは何があっても大丈夫だと思う。お父さんのことは、お母さんもお姉ちゃんも私も決して忘れないからね。

大学をあきらめようと思ったけど、やっぱり行きたいのでがんばることにしました。

仕事の後の家事はやはりかなりきついです

私たち夫婦は二人の息子と妻の両親の六人家族でした。地震の直前、私と妻は長男の具合が悪かったために起きていて、朝になるまで待つて病院に連れていこうと話合っていました。

私はそのまま起きていて、妻と次男が寝入った瞬間ゴーツという音がしてから先は記憶がありません。一階がつぶれたために二階が傾き、私たち親子も転がり落ちてしまつて、私は氣を失つていたらしいんです。一番北側に寝ていた妻と長男が壁の下敷きになつて亡くなり、私と次男は妻と長男の二人が支えになつて助かつたんです。

階下にいた義母は私たちの下敷きになつて亡くなり、義父はダンスには生まれながらも助かりました。私は自分の家族のことしか頭になくて、義父母のことを考える余裕がなく、近所の人や義父を助け出してくれて、はじめて二人の存在を思い出したくらいです。義父は一命をとりとめたものの、大阪の病院に移送され、一週間くらい人工透析を続けた後、現在はリハビリをしています。はさまれた脚が不自由なのと精神的なダメージがひどくて、だいぶ老け込んでしまいました。年を取つてから、長年連れ添つてきた妻と娘と孫をいっぺんに失つたんですから無理もないと思います。

私も時折、もう家も職も何もいらなから妻と息子が戻つてきてくれたらと思います。

ひどいケガをしていても、どんな姿でも生きてさえいてくれたらそれだけでいい。それでも、いつまでも泣いてはられないので、三週間避難所を転々として、このアパートに落ち着きました。でも、ここは新婚さん用のアパートなので、私たち親子は場違いな感じですよ。

仕事は一番ラクな部署に変えてもらいました。幼児を抱えているので、この子が病気をしてもすぐに休めるようなところでないかと仕事を辞めなければならなくなる。食べていかねばならないので、それだけは困りますから……。収入源は私の給料だけ。義父は入院中ですし、高齢ですからもう頼りません。

ただ、家は基盤がずれただけでジャッキアップすればなんとか直せそうで、三月には住めるようになるんです。もちろん、ローンは抱えますが、それは働いてさえいればいずれは返せるわけですしね。

息子は幼いので、たぶん母親のことも震災のことももう覚えていないんじゃないかと思えます。昼間は保育所に行っていますが、行きはじめてからだいぶたくなりました。お友達もたくさんできて、夜泣くこともありません。ただ今まで妻任せにしていたので家事や育児が大変です。仕事から帰ってきてご飯を作って掃除をして、洗濯をするとどつと疲れます。私も小さい時に父を亡くして寂しい思いをしたので、妻が親と同居したいと言った時も大歓迎で、うちは大家族で幸せだと思っていたのに、今や親一人子一人でしょう、切ないですね。

預けておいた病院に遺体はなかった

私はその日、何だか気分が悪くて仕事を休んでいました。勤続十七年、めったに休むことなくてなかったのに、これも虫の知らせでしょうか。具合が悪いので横になっていきますと、午後になって玄関が開き、

「お母さん、お母さん」

という息子の声。

「あら、どうしたの？」

と出ていくと、

「何寝呆けたこと言ってるねん。弘子と由美が死んでしまったわ」

その時の息子の顔は今までに一度も見ることがないような、狂ったような顔でした。よくこんな状態で五時間も運転をしてきたものです。

「お母さん、賢一から離れんといてや。頼むで！」

と言い残し、嫁と上の孫の遺体を引き取りに病院に向かいました。ところが病院にはすでに遺体はなく、安置所に移動されていました。

「なんでここに置いといてくれんかったんや！ わし、置いといてと言ったやろ」

と息子は叫んだそうですが、病院には次々にケガをした人が運び込まれてくる。すでに死んでしまった遺体を置いておくスペースがなかったんでしようね。

でも、誰に聞いてもこの安置所に移したのかわからない。それで、ともかく一番近い安置所から捜しはじめたんですが、遺体の上に名前を書いた紙を乗せておいたはずなのに紛れてしまったんでしようね。

名前を言っても警察の人にもわからなくて、自分で捜してくれて言われた時に息子は気が遠くなったそうです。自分の愛する人の遺体を捜すだけでもつらいのに、見も知らない人の何千もの死体を見なければならぬなんて地獄でしょう。

ただ、嫁と孫の遺体には特徴がありました。地震が来たとき、息子は由美を抱け！ って叫んだんで、嫁と孫は抱き合ったままの形で死んでいたんです。親子で抱き合っていた遺体はなかったかと聞くと、係官も印象に残っていたらしく、すぐに見つけたそうです。

私は仕事場では一応責任ある立場にいたのだけれど、震災後に会社を辞めました。あと四年で定年だったんで勤めあげたかったんですが、孫の面倒を見なければなりません。賢一はようやく三歳になりましたが、今でもよくあの時間に起きて泣きます。ちょっと風が吹いただけで、「おばあちゃん、ジンシン、ジンシン」

と恐がってすがりついてきます。こんな小さな子にもすごい恐怖心を残したんでしようね。

籍が入ってへんかったら夫婦と違うんか！

朝、起きてキッチンの上に座ったとたんでした。冷蔵庫の扉がひとりでに開く、鍋が飛び散る、今まで見たことのないような光景がいつべんに展開されて、何が起きたのかまったくわからなかった。近くに電車の高架があったから、電車が脱線して飛び込んできたんかと思っただけです。

今度の地震では一階がつぶれて二階が落ちてきたのが多かったでしょう。でも、私の上に落ちてきたのは隣の家の二階。まるで二階ドミノだったんやね。私はダイニングのテーブルの下に入って、椅子と椅子の間にはさまって何とか助かったんです。二階に寝ていた娘と息子が、ママ、ママって呼んでくれるのがわかって返事をするのに、家具やクッションに吸収されて聞こえなかったんやろね。気づかないんですよ。

それでテーブルの折れた脚で天板を叩いていたら気づいたららしくて、
「ママなの？ ママならもう一回叩いて」

と娘が言うから、思いっきり叩きました。でも、助け出される時が一番つらかった。私を出すためにはテーブルの上に乗っている食器棚を反対側に倒さなければならぬ。でも、そこには主人が寝ているんだもの。何度呼んでも返事はないし、ダメだったんだとは思うけれど、私

が助かるために主人を犠牲にするような気がしました。

助けてくれた人達ではありませんけれど、レスキューの人にも腹が立ちました。私を出した後、すぐに主人を出してくれたら、もしかしたら生きてたかもしれないのに。よそへ行ってしまって、ようやく夕方に戻ってきたら、もう暗くなるからダメやって、明日、明日って言うて、帰ってしまった。

それから火事が起きて、結局主人は途中で燃えてしまったんです。ダメだとわかってはいなくても一目会いたかったのに……。

後から片づけにいったら、耐熱容器がグニヤと飴のように曲がってました。すごい熱だったんですね。こんな中で主人は燃えたのかと思ったら涙が出ました。

主人とは二回目で、一緒に暮らしはじめてからまだ三年。籍は入れてなかったけれど、とても仲が良かった。二人でよく行ったお店の前を通りかかると、そういう思い出のある場所に限ってみんなつぶれたり、燃えたりして、何にもないの。なんかすごくいやだった。地震って、家が壊れるだけのもんじゃないですね。それからの人生もみんな壊してしまうものなんです。

今、私は厚生年金がもらえなくて、生活ができません。夫婦であってこそ受けられるって言うんです。籍が入ってなかったら夫婦と違うんかと思いましたよ。こんな変なシステムでも日本は経済大国って言うでしょ。いったいどこが潤ってるんでしょうか。

元気やったのにクラッシュ症候群で

あの時、息子はちょうど出張でいなくて私と嫁の二人きりでした。二人の孫は就職と大学でそれぞれに神戸を離れていたんです。私が寝てたのは一階の平屋部分で、嫁が寝てた方には二階が乗ってたんです。それが運命を分けたんですね。

明け方になって私は自力で這い出してはじめて二階がなくなったことに気づきました。後でよく考えたら一階がなくなってたんですけれどね。嫁の名を呼び続けると、

「出られへんのやわ」

と答えました。助けようにも家が崩れてきそうでもうしようもできない。近所の人とジャッキを使ったりいろいろなことをしていたら、工務店の人が北から入ったら危険だからって、反対から入って助け出してくれたんですよ。三時間くらいたった昼頃でした。大したケガもしてなかったから、命に別状がなくてよかったと思っていたんだけど、脚の感覚がいらしく

「私、寝たきりになるのかしら？」

と言うから、

「養生したら治るよ」

って言ってたんですけれどね。息子の出張先に電話をしたけれど、なかなか通じなくて晩に

なつてようやく連絡が取れましたが、今は帰れへんから明日の朝には帰ると言うのです。そうしたら、夜になつて嫁の容体が悪化して苦しそうで、

「私、死ぬのかしら？ まだ死にとうないわ」

つて言いはじめたんです。苦しかったんでしようね。見た目は大丈夫そうだから、「そんなことあらへん。若いからすぐに元気になるよつて」

と励ましましたが、嫁の父親が駆け付けてきて、間もなく息を引き取りました。

大ケガをしている人が大勢いたから、嫁みたいに大したことなさそうだと放り出されたんでしようね。後から、クラッシュ症候群と違うか、と言われましたが、よくはわかりませんね。

検死を受けた時も、医者はチラツとみて「即死」つて言うんです。でも八時間も生きてたんですよ。元気で話していた。

近所に生き埋めになつていられるおばあさんがいて、返事をしているのにまだ助け出せないらしいと言つたら、嫁は、かわいそうにねつて返事してたのに、その数時間後に自分が死ぬなんて思つてなかつたと思いますよ。

まだ、小学校に遺体が安置されている時に、マスコミがずかずか入つてきて、政府に何を望んでいるのかとか、いきなりインタビューするんですよ。こちらは家族を失つてそんなことを考えている余裕もないのに、ずいぶん無神経だと思いましたね。

引き取った姪が私のエネルギー源

妹の家とは自転車で行けるくらい近さでした。私の家も全壊だったんだけど、ケガはなくて、妹の様子を見に行っただけです。そしたらペチャンコになっていて、近所の人が、あかんって。頭の中が真っ白になりました。

姪だけが助けだされて近くの公園にいるからって聞いて走りました。姪は駆け付けてきた義弟の姉とそこにいました。大丈夫かって聞いたたら、

「地震のちよつと前にトイレに起きて、グラツと来たとたん台所のテーブルの下に潜ったの」だからケガもなかったんです。でもお父さんもお母さんも弟も即死でした。すごい倒壊で素人では何もできなくて、二日たってようやく自衛隊の人が取り出してくれたんです。

妹とは家族で一番仲がよかったんで、週に一度は行き来してたから、姪も生まれた時からお風呂に入れたり、娘みたいにかわいがってたんですよ。

震災後、すぐは私のところも住めなかったし、一カ月くらいは義弟の姉の大阪の家に行かせてました。二月十三日から学校が始まったんですが、義弟の姉はそこから通わせると言いましたが、あの子も私と一緒にの方がいいって言うし、連れ戻したんです。

ところが、五月になってあちらが姪を引き取ると言ってきたんですけれどね。結局断りまし

た。この子の財産はあちらが管理しているんで、毎月一カ月分の生活費を割り出して細かくデータにして渡して、振込んでもらっています。でも、姓は向こうの家だからね。将来は引き取りたいみたいに言われてちよつと争ってるんです。

でも、手放せない。私の娘はもう大きくて手が離れてるし、姪だけど年が離れてたから孫みたいな感じでかわいくってね。この子がいるからがんばれるんだと思いますね。震災当時はショックで、私が何も食べられなかったけれど、引き取ってからはしっかりしなくちゃって思ってた食べるようになったしね。

ともかく明るい子で元気です。学校の成績もちつとも下がらんかったしね。強い子です。K i n k i キッズが好きでCDを買ってよく聴いています。七年もやってるジャズダンスにも週に一回は稽古にいつてるし。前向きやね。

私はあの子からもらうエネルギーが凄いなと思う。

行政には、もっと子ども中心に考えてほしいと思いますね。福祉や福祉やって老人優先にしてるけど、こんなん言ったら怒られるかもわからんけど、老人はもっと郊外の空気のいいところに行つて住めばいいと思いますよ。何も神戸の町中に住まなくなつて。子どもには学習環境だつてあるんだから、もっと若い人が神戸に残つてくれないと復興も難しいと思います。

本当は先生になりたい

中学一年 藤本竜也

あの世ってどんなところなのですか？

とても楽しいところですか？

ぼくは、小学校の先生になりたかったけど、今は美容師になりたいです。

でも、本当はまだ、先生になりたいと思ったりして、まよっています。

先生になるには大学までいかなければならないからです。

地震の日はこわかったです。

ぼくも、こんなに家がつぶれるとは思ってもいませんでした。

だから、あまり思い出したくありません。

時々、お父さんと弟のひろあきが夢に出てきます。

今なにをしているのか、と考えますが、ぼくには全ぜん想像がつきません。

だから、あの世がどんなところなのか知りたいです。

でも、ぼくは、お父さんとひろあきの分、生きたいと思っています。

お空から見守っていて

小学四年 大崎慶子

お母さん、今わたし達は、いつもどおり元気でやっています。
友達とも元気に遊んでいます。

おばあちゃんや、いろいろな人達が、

おかしやいろんな物をもってきてくれます。

わたしは学校の地区別じどう会の副代表になりました。

それと、入学式でも、学校に入ってくる子の事を、

みんなに教えてあげる役になりました。

家では、お手つだいもがんばってやっています。

これからも、毎日、勉強やスポーツ、家の事など、

なんでもがんばっていきます。

だから、いつもお空から見守っていてください。

十日後に知らされた夫の死

私たち一家は、四階建てのマンションの三階に住んでいました。部屋の中はグチャグチャになったけれど、マンションの被害はそれほどなかったんで助かりました。それでも、結局は危険だっって言われて建て直すことになったんですけれどね。

夫はその日、友達の家麻雀に行っていて、そこで地震にありました。だいたいの場所は聞いていたけれど、詳しい住所がわからないからどこへ行っていいのかわからないので、近所の警察に写真と名前を書いてお願いしたんですけど、何回電話しても同じ返事ばかり。どうしているのかずっと気になっていました。

十日後によくやく警察から電話があつて、夫の遺体を引き取りに行きました。十日たつても本人から連絡がないから、諦めてはいたんですが……。なかなか火葬場が空かなくて、市にお願いしてようやく焼いてもらったらずし落ち着きました。

夫は失いましたが、私たちはかなり幸運だったんだと思いますよ。こうして親子二人無事でしたし、主人亡き後、小学生の子どもがこんなに頼りになるとは思いませんでした。マンションが無事だったので、私たちは家財道具は何も失いませんでしたから、主人との思い出の品もみな残っていますしね。

震災前から働いていた職も失わずに済んだのもありがたいと思います。働いていることで気が紛れますしね。かなり早いうちに仮設が当たって住むところもあります。近所に住んでいた母と弟も無事だったんで最初は一緒に住みました。今は弟だけ別の仮設です。

でも今のところは仮設の家賃はないからやってられますが、収入源は私だけですし、保険金も児童扶養手当と死亡保険金だけなんで、これからのことを考えると経済的に不安ですね。子どもの教育費のこともあるし、いずれはあしなが奨学金を受けたいと思っています。

子どもは仮設から通うのが無理なんで小学校は転校させました。以前の学校では野球をやっていたんですが、今は入部を勧めてもじーっと見てるだけ。内気なほうで友達ができるかどうか心配したんですが、仮設の中にも学校の友達がいる、なんとかやっているようです。

あしなが育英会の集いには私は仕事で行けなかったんで、子どもは祖母と参加しました。とても楽しかったようですね。

今度はデイズニールランドに連れて行ってもらえるかと聞いて大喜びしています。まだ連れて行ってなかったんで、はじめてですから楽しみみたいですよ。前の集いで知り合ったお兄さんにまた会えるかなと言っています。

でもね、なかなか一人では行けないたちなんで、それが困ります。マンションが建て直ったら、やっぱり元の場所に戻りたいですね。

人間って死んだら物みたい

妻の姉夫婦を亡くしました。四人の子どもだけ残ってね。一番下の甥だけ私達が引き取って、三人の姪は妻の妹のところにおります。

義姉夫婦は家の下敷きになって即死でした。近所の人を取り出ししてくれたんですが、ともかく病院に連れていこうと思っても、救急車も乗せてくれない。消防の人から、

「言うことはわかるけれど、ともかく生きている人を優先させてほしい」

と言われて、自分の車に二人を乗せて病院に行っただけで、満員で入れない。中にいたお医者さんに頼んで、表まできて診てもらったら、もうダメだから区役所の方に行きなさいと言われました。

でも、区役所も死体でいっぱいなんです。役所の人が玄関口でいいから置いていってください。人間って死んだら物みたいなんだなと思いました。でも、それじゃ私達の気も済まないんで、なんとかもう少し落ち着いた場所についてお願いして、近くの区民センターを開けていただいで安置させてもらいました。

家財はほとんどダメでした。貯金については、郵便局や銀行に名前を登録すれば後で連絡がくるということでしたが、管理していた大人二人が死んでいるので、全部わかっているかとい

つたら違いかもしれません。ああいうものはかなり曖昧なものですね。

甥は卒業なんで、震災前は進学か就職か五分五分というところだったらしいんですが、今は大学に進学したいと言っています。

ともかくこれまで一緒に暮らしていないから、どのくらいの学力なのかとか、そういうことがまったくわからないんで、こちらとしてもアドバイスもできない。でも、震災の影響もあるのか、今一つ力が入ってない気がしてね。自分の子と違うんで、もう少しがんばれって言っているのかどうかわからない。親戚の子と思って見ないようにはしているんだけど、やっぱり気を使いますね。

両親の写真を見たいかと思ってもらってきたんですけど、その日は机の上に立ててたけれど、翌日にはどこかにしまってしまった。やっぱり見るのもつらいんやろな。

一時期兄弟全部引き取ってたから十人で暮らしてたんです。ところが避難所にいる人には物資がどんどん来ているのに、我々のように残った家に避難してきているものには何も無い。これは不公平だと思えますよね。

あしながの調査も、いろいろな声を聞いてもらって公正な目で伝えていってほしいと思います。他の団体とも意見交換したりして、ともかくさまざまなケースを調査するべきでしょう。

阪神大震災はやはり、後世に残していかなあかんことなんですから。

自分の死どう受け止めてるの？

妻と保育園の娘を亡くしました。まだ赤ん坊の息子と私の二人きりになってしまいました。

瓦礫の中から三人が発見された時、妻の手が二人の子どもを右手に一人、左手に一人と、抱えるようになつて出てきました。娘と妻は即死でした。でも生前、妻が自分の命にかえてでも子どもを守ると言っていたように、息子はほとんどケガもなく助け出されたんです。

本当に人の運命なんてわからないです。悪い人が先に死ぬって言いますが、あれはウソですよ。妻と娘なんか何にも悪いことしてないのに……。

もしそれが本当なら、私が一番先に死ななきゃダメですよ。娘なんてまだ幼児です。自分の死をどう受け止めているのかなあって思います。死んだこと、本人もまだ気づいてないんじゃないかなあとも思うんです。

娘とは本当によく遊びました。いろんなところに行つては、ほしいというものを何でも買ってあげたりして、よく妻に叱られましたけどね。今から思うといろんなものを買ってあげてよかったと思うんですよ。

なんで、神様は二人を連れて行つたんでしょうね。妻にさんざん迷惑かけてた私を連れてってくれたらよかつたのに……、そしたら保険金だつて入つたし……。私にこれから先のことを

真剣に考えさせるために私を残していったんでしょか……。

今、息子を実家の両親に預け、私は一人暮らしです。最初は実家から通勤してたんですが、遠くて疲れてしまい、実家と会社の間地点に部屋を借りることにしたんです。

経済的に余裕があるわけでもないのに、こんな一人暮らしはすっごくぜいたくや、と思うんですけど……。

休みごとに息子に会いに行ってます。でも、両親ももう歳で持病もあるし、息子はこれからどんどんやんちゃになるし、どうしようかなと思ってるんです。

私の部屋に二人の遺骨を置いてるんですが、一人、部屋に帰ってくると、妻と娘の前に座って、これからどうしたらええんやろ、と言ったままシーンとしてしまいます。

二人の周りには、全壊した家から取り出したおもちゃや妻の持ち物を並べてるんです。こんなことしたら天国に行けないって言いますが、小さい息子を残して行こうなんて思っていないと思います。ずっと近くにいたいと思ってると思うんです。

今回の震災で「復興」という言葉がよく使われていますが、その言葉は嫌いです。私たちがたいな者にとっては、壊れたものは壊れたものとしてそのまま残るんです。心の傷は残ったままなんです。壊れたものや亡くした人を蘇らせることなんてできない。やり直すのではなく、また新しいものを作っていこうとしなければいけないんだと思います。

ママを頼んだぞ

その日はゴルフに行く日で、私はうれしくて五時半には起きて、ストーブをつけてすぐでした。グラツときてすぐストーブを消すボタンを押したその瞬間、体が宙に浮き上がって二階がグワツとなつてつぶれてきました。

暗やみの中で気がついた時には体が全然動かへんのです。

助けてー！　っていう女房の音が二、三回聞こえてきたけど、体は動かへんし……。助けてやりたいのに自分もはさまつてて、がんばれ！　って声かける以外、なす術もないんです。どうもできん自分が情けなくてね。

息子と娘は別の棟におつて無事やったから、近所の人を頼んで助けに来てくれました。

俺が救出された後、その次に女房が救出されたんやけど、俺はまだおふくろを捜さなあかんから、息子に嫁はんをおんぶさせて病院へ行かせました。

「お前のママやから最後までついて行ってこい、頼んだぞ」

言うて。息子の話によると、病院で二、三回電気ショックしてもらたらしいです。

「もう、あかん」

病院で言われても諦めきれへんかったんやろ、その後一時間くらい、息子が母親の心臓マッ

サージシとつたということを知った時は涙が出そうになりました。

おふくろもあかんかったんやけど、病院の検死が済むまで遺体を置いとかなあかんというこ
とで、おふくろと女房の遺体が違う場所にばらばらに運ばれてしまいました。

しばらくは両方を行ったり来たりして落ち着きませんでした。それから何日かして、やっと
二人を引き取ることができて、避難所でしばらく柩と一緒に寝てました。

避難所の体育館ではみんなそんな状態で、それぞれの親戚が来るたんびに、向こうで、ワー
ッ、と泣く声があったかと思うと、今度はこっちという具合で、そのたびにまたみんなもらい泣
きです。結局避難所での八日間はずーっと泣きっぱなしでした。

今はマンシヨンを借りて父子三人で暮らしています。

一番大変なのはやっぱり家事かなあ。炊事とか洗濯とか会社から帰ってきてからやるんやけ
ど、ホント大変や。息子や娘も、言うたらやるんやろけど、子どももお母さんもおばあちゃ
んもいっぺんに亡くしたんやからと思うと、よう怒らん……。こんな悲しい思いしてるんやか
ら怒らん方がええかなあと思て……。でも、ちよつと甘やかし過ぎかなとも思うなあ。

そやけど、娘も息子ももう大きいし、ちゃんとやってってくれるやろと安心はしています。

俺が生きてるうちにつぶれた家の土地に、もう一回家を建てたいと思つて、建築業者を決め
ました。五十歳近くになつて借金はいやだけど仕方ないしね。

一月十七日絶対忘れない

高校一年 木花武徳

最近は本を読む時間が増えた。読書は父が好きなことだった。

日記もつけるようになった。

これも父がしていたことだ。

今は時々ボケーンとして無気力になることがある。

それも地震があつてからだ。

そして、父を失つたことが……。

今思うと、もっと親孝行してやりたかった。

幸い母は助かったが、父への孝行とは違つてくる。

父は、僕たちのために夜遅くまで働いてくれたから、もっと楽をさせたかった。よ

くけんかもしたが、今はけんかもできない。

だが、ウダウダ思うことはもうやめよう。

今はこの体験を教訓にして、前へ進むことが大切だ。

そして、将来は父にほめられる人間になりたい。

一月十七日は、永遠に忘れない。

ショックで心臓が止まって

小中高四人の子どもを残して妻が亡くなりました。はじめは気絶しただけのように見えたのですが、心臓が止まっていて、娘と必死でマッサージをしたのですが、全く反応がありませんでした。

近所の人の車で病院に運んで、電気ショックもやってもらったんですが、血圧が上がらず、それっきりでした。

このあたりでは亡くなった人はいません。うちだけです。もちろん、避難所も行かなかったし、今までの生活と変わりません。子ども達は震災については一切口に出しませんし、母親のことについても触れないようにしているみたいです。

私は仕事柄、外国に行くことが多く、その間は子ども達だけになってしまいます。上の子が大きいとはいえ、やはりかわいそうで、国内にいるときは、夜は必ず家に帰るようにしています。学生時代、食べ物屋でアルバイトしていたことがあるので、料理も家事も一通りできます。子ども達は意外な父親の姿に驚いています。

家内とは結婚二十年でした。仕事で私一人が出かけることが多く、今年こそは二人でどこかに旅行に行こうと言った矢先でした。

三つの病院を行ったり来たり

うちは幸運にも亡くなった人はいなかったんですが、主人と私、それから長女がひどいケガをしました。重度後遺症ということで、三人とも別々な病院で治療中です。

家具が倒れないように止め金をつけてたんですが、壁ごとでしたから、もうどうしようもなかったです。身体の上に、いろんなものが乗っていて、余震がくるたびにどんどん重くなるんです。

天井までも落ちてきていたことは、あとで聞きました。あの時知っていたら、心臓麻痺を起こしていたんじゃないかしら。助け出されるまで、地獄のような数時間でした。

下の娘は入院するほどのケガもなく、結局家の後始末を全部一人でやってくれました。ずいぶん強くなったんじゃないかなと思います。娘一人、ナップザックを背負って、私と主人との病院を行ったり来たり。こまごまと看護してくれ、慰め、励ましてくれて、親と子の立場が完全に逆転してました。

この子は、友達が支えだったと言っています。直後、避難所にいた時も、友達が捜しに来てくれて、自分の家に連れて行き、着るものから食事から世話をしてくれたと言っていました。本当にありがたいことと感謝しています。

三人のこと絶対忘れたらあかん

震災の時、二階建ての文化住宅に、家族五人で住んでいました。私達の住んでいた一階は二階に押しつぶされて、生き埋めになりました。近所の人や知り合いが来て、ジャッキなどを使って、どうにかこうにか私を助け出してくれたのが十七日の昼頃でした。夫や子ども達が心残りでしたが、そのまま病院に運ばれ、入院したんです。

主人と次女の埋まっているところは手の付けられないような状態で、救出活動は翌日になったそうです。

入院して三日後、夫、それに次女と長男が死んだということを、両親から聞かされました。五人の家族が一瞬の出来事で、たった二人になってしまったんです。

長女は以前はもっと暗い子だったんですが、震災後よくしゃべるようになり、明るくなりました。この子が父親の最期の言葉を聞いているんです。

「もう、あかん」

と言って、手を伸ばして来たそうです。手を握りたかったみたいなんです。

だから、お父さんと妹と弟が死んでしまったけれど、三人のことを絶対に忘れてはあかんと言っています。絶対に覚えときって。

もう一度人生やり直さないと…

地震が起きたとき、私は東京で単身赴任の一人暮らしでした。神戸の自宅では息子が二階、女房と娘が一階で隣合って寝ていて、女房と娘は倒れてきたいろんな物の下敷きになりました。娘はずっと女房の手にさわりながら、声をかけ続けました。全然応えてくれなかったんですが、ぬくかったんで、絶対気絶してるだけやと思っただけやと思っただけです。検死では既死ということでした。

犬のパピオンは、女房の下で、最初だけキュンキュン言ってたそうですが、それもすぐやんで、口からよだれをだらだらとたらしてきたので、娘はもうあかんなあと思ったそうです。

直後は恐くて家の中に入らず、みんな車の中で寝ていました。全壊した家から女房の遺品とか、あるものだけでも取り出そうとしたんです。そしたら、僕のものだけなんです。その時は、僕だけでもう一度人生やり直さないといけないのかなと、寂しく感じました。疲れるな、もう充分だなと思いました。

今僕たちに必要なのは、自分達でゆっくり考える時間なんです。

どうしようもできなつた

よく地震が起きたら机の下に隠れろって言いますが、とてもそんなことできませんよ。家ごとシエイクされてるみたいで、足が動かないんですから。

私たち五人は一階に寝ていたんです。次の瞬間、天井が、そして梁も落ちてきました。主人は下半身にその梁が落ちてきて、大きなハンガーが胸に当たってたらしいんですよ。幼児の三男は私の下敷きになっていたんです。体を浮かせてちよつとでも隙間ができないかいろいろ試したんですが、無理でした。

三男も最初のうちは泣いてたんですが、だんだん力尽きていきました。二男も圧死です。

最初に長男が奇跡的にケガもなく救出されて、次は私でした。瓦礫の上の方で、どこにいるのー、っていう声があるんですけど動けないんです。ようやくどうにか助け出されましたけど、腰を複雑骨折していて、そのまま病院に運ばれてしまいました。

主人はその後救出されて、病院にかつぎ込まれたものの、その日の夜、亡くなりました。私は結局七カ月の入院生活でした。

今やっと、たった一人っきりの家族、長男と一緒に暮らせるようになりました。

近所づきあいって大切だけど…

震災のまったただなかで、初めて隣の奥さんの顔をまじまじと見ました。ああ、こんな顔をしていたのかというのが実感でした。洗濯物を干す時などに挨拶ぐらいはしていたけれど、意外に顔なんて覚えていないものですね。

隣近所、狭い場所に密集して暮らしてはいても、つきあいが希薄なので、そのために発見が遅れて、生き埋めになったまま死んでしまった人もたくさんいたんじゃないですか。あの時は、やっぱり近所づきあいって大切だなあとしみじみ感じましたよ。美談めいた話も報道されましてね。でも、半年も経って落ち着いてくると、正直言って、つきあいが煩わしくなってくる。喉もと過ぎれば、うつつとうしいだけなんですよ。

うちの息子も、タンスの下敷きになっているおじいさんを助けたりしましたけど、その場かぎりでしたね。もう顔もわからないですよ。

もともと住んでいるところですらそうだから、仮設住宅なんかじゃさぞ殺伐としているんでしょうね。いくら隣近所がくっついていても、特に知り合おうとしなければそのままですよ。お年寄りが亡くなって長いこと気がつかなかったという話、よく聞きますからね。一声かけ合っていればそんなことないのにね。やっぱりなかなかできないんですよ、実際はね。